

都市再生整備計画

れきしかいどういづはら
歴史海道巖原地区

ながさき つしま
長崎県 対馬市

令和8年3月

| 事業名 | 確認 |
|-------------------------|----|
| 都市構造再編集支援事業 | ■ |
| 都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金) | □ |
| 都市再生整備計画事業(防災・安全交付金) | □ |
| まちなかウォークアブル推進事業 | □ |

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

| | | | | | | | | |
|-------|--------------------|------|--------------------|-----|----------|----|------|----|
| 都道府県名 | 長崎県 | 市町村名 | 対馬市 | 地区名 | 歴史海道厳原地区 | 面積 | 75.0 | ha |
| 計画期間 | 令和 8 年度 ~ 令和 12 年度 | 交付期間 | 令和 8 年度 ~ 令和 12 年度 | | | | | |

| |
|---|
| <p>目標</p> <p>大目標：対馬の循環を支え歴史や文化、景色、場所、新しいもの・ひととの出会いを日々の中で育むことができる城下町を目指す</p> <p>目標1：独特な歴史・文化を楽しくつなぎながら、気軽に地域の人が集い安心して住み続けられるまち</p> <p>目標2：世代と海を越えてつながりを感じながら、島全体の経済を牽引するまち</p> <p>目標3：地域内外と日常的につながり、移動が便利なまち</p> |
| <p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>対馬市は、「自立と循環の宝の島」をめざし、基本方針を「ひと～みんなが主役になる希望の島」「なりわい～地域経済が潤い続ける島～」「つながり～支え合い自立した島」「ふるさと～自然と暮らしが共存する島～」に設定している。都市づくりにあたっては若者の流出、高齢化の進行とともに、主要産業である漁業、農業の衰退による財政悪化も顕在化している中において、城下町としての歴史・文化やすぐれた地域資源を活かし、暮らしやすく活力のある都市環境の形成に向け、市街地のにぎわいを取り戻し、また子どもから高齢者まであらゆる世代が不便なく、安心して暮らせる環境を形成するために、集約型の都市づくり(コンパクトシティの構築)を推進することとしている。対馬市立地適正化計画では、これらを踏まえるとともに、厳原地区をその立地特性から「交流の城下町」と位置づけたいと、市民の声を反映し、歴史や文化、景色、場所、新しいもの・ひととの出会いを日々の中で育むことのできる城下町を目指すこととする。以上を受け「対馬の循環を支え ぽっとする出会いを育む城下町 いづはら」を基本理念としてコンパクトなまちづくりを進める。中心拠点(今屋敷地区、東里地区)では、都市機能の集積と合わせて歴史・文化景観の維持・保全や憩いの場を創出することで交流人口の増加を図る。また島内外をつなぐ交通拠点機能の集約と合わせて憩いの場を創出することで交流人口の増加を図る。生活拠点(桧原地区、久田地区)においては、教育や子育てを支える都市機能及び市民の健康を促進する都市機能を維持・集約することで、生活サービスの持続的な提供を図る。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>当地区は、九州本土と朝鮮半島の間に浮かぶ国境の島「対馬」の南部に位置している。本事業の対象地である対馬市の厳原地区中心市街地は、古くから朝鮮貿易の港町としてまちが形成され、藩主宗家入島後は10万石の城下町として九州でも屈指の都市が形成された。明治以降は、国や県の行政機関、交通ターミナル等が林立し、また昭和中期には漁業基地として賑わいを呈し、長年対馬の中心として栄えてきた。令和6年4月から、コロナ禍で休止していた韓国釜山市と厳原港の間で航路が復活し、韓国からのインバウンド客数が増加している。</p> <p>本市は、当地域の周辺部に対するナショナルミニマムの達成に向けた方策を、本市発足以前の旧厳原町時代からポテンシャルの高い当地域に対する地域資源の発現に転換し、「平成の城下町プロジェクト」に取り組み、発現事業をとおして住民自身の誇りの醸成と共に地域力を高めることに取り組んできた。</p> <p>特に、3つの国指定文化財資源(藩主の菩提寺「万松院」・江戸時代初期の居城「金石城」・秀吉の朝鮮出兵の際の出城「清水山城」)が連担している区域を中心として、大正時代に取り壊された大手門の再建や崩壊の危機にあった遺跡の修復及び埋没していた庭園などの復元に取り組んできた。その他には、道路修景の一環として城下町の風情を醸し出す意匠として街路灯の設置や武道場の再建と藩校の門の復元に取り組んだ。更にこれらの方向性を受け県の出先機関の敷地内石塀や長屋門の修復、職員宿舎や警察庁舎の建築の際、意匠への反映などに取り組んできた。</p> <p>しかしながら、1600年代後半に形成された城下町としての町割りを残していくことと反比例して、中心市街地内における高齢化対策や自動車社会への対応が遅れ、郊外の隣接地域への大型店舗の立地が急速に進み、まちの活気が急速に失われつつある厳しい状態に曝されている。</p> <p>その対応として、今屋敷地区第一種市街地再開発事業や都市計画道路厳原豆酸美津島線整備事業あるいは、中心市街地に隣接する中村地区では、地区内に残る武家屋敷など当時の貴重な財産を活かした街並み環境整備事業を実施し、滞っていた市街地整備を活発なものとした。</p> <p>また、その流れを継承し発展させるため、あらゆる交流のエントランス機能を有した総合窓口を設置し、国際交流拠点施設となる特色のある新しい市街地整備を実施し、歴史・文化遺産の整備集大成として、令和4年に「対馬博物館」の建設が完成した。</p> <p>他方においては、本市は南北に長い地形であり、全市的に文化・経済・生活・医療・防災などの各方面で公平で均一な行政サービスが求められているため、高度情報化社会に対応した情報基盤施設整備事業に着手し、防災・保健衛生・介護認定・教育などの分野に於いて、徐々にではあるが広域的な協働関係と効率的な住民サービスを提供している。</p> <p>これらを平成17年度から都市再生整備計画事業により「厳原城下町地区」としてハード・ソフト両面から整備を進めてきたものの、市街地の生活基盤と観光ルートの整備が万全ではなく、市民・観光客のための快適な空間形成の成就不至で至っていないのが現状であり、市民の安心安全の交通ネットワークやランドマーク的な施設が形成されておらず、都市空間として一定の充足感はあるものの市民生活・観光客への快適な市街地形成に基軸を移せば、まだまだ欠けたものとなっている。</p> <p>これらを踏まえ、本整備事業において、真の交流拠点、安心感があり歴史文化にあふれる快適な居住環境・観光基盤の醸成を図り、都市再生を目指すとともに離島都市として産業の連携や全ての資源を有効に活用し、人・物を網羅した循環型社会整備を進めて行く。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や子育て支援施設、医療施設等の老朽化や機能不足、地域ごとの偏りがある。 ・狭隘な道路や倒壊等の危険のある空き家等があり、安全な歩行区間を確保できていない。 ・歴史的・文化的な景観を形成する石塀・石垣が減少傾向である。 ・電柱・電線が歴史的な景観を阻害している。 ・国指定史跡内に立地している厳原体育館が老朽化している。 ・憩いの場となる施設整備が不足している。 ・対馬博物館と金石城跡が隣接しているが、一体的な利用と周遊を促すため環境整備が不足している。 ・緊急車両が通行できない狭隘道路や急カーブな道路が地区内に多く点在し機動性・安全性を損なっている。 ・歩道が狭く、こどもや高齢者を始めた市民の歩行の安全が確保できていない区間がある。 |

将来ビジョン(中長期)

- ①第2次対馬市総合計画(2016-2025)(平成27年度策定)
 - ・学校や地域が連携して子どもたちを育てることで、子どもたちの郷土愛が育まれ、しまづりの担い手として成長している。
 - ・道路や水道、災害対策、島外への交通など、暮らしのライフラインが維持されており、安全に暮らすことができる。また、地域の状況に応じた最適な地域交通の仕組みがあり、地域内や地域間の移動がより手軽になっている。
 - ・対馬の固有の遺産や文化財、美しい景観が保存されるとともに、市民の生涯学習の教材や観光資源として有効活用されている。また、空き家や廃校、公共施設等の未利用な資産はニーズに応じて賢く利用されている。
- ②厳原都市計画マスタープラン(2018-2035)(平成30年度策定)
 - 【海と山につつまれた歴史と文化と交流の都市】
 - ・災害から住民の生活を守る都市基盤の充実を図る。
 - ・基幹的道路交通網の整備・充実を図る。
 - ・歴史、文化、風土等の地域特性を活かしたまちづくりを推進する。
 - ・市街地内幹線道路網の充実や高質化を図り、よりよい生活空間を構築する。
 - ・城下町の風情ある中心市街地の歴史文化を保全するため、石堀石垣の保存整備を図る。
- ③立地適正化計画(2024~2028)(令和5年度策定)
 - 【理念】対馬の循環を支えほつとする出会いを育む城下町 いづはら
 - ・独特な歴史・文化を楽しくつなぎながら気軽に地域の人が集い安心して住み続けられるまち
 - ・世代と海を越えてつながりを感じながら、島全体の経済を牽引するまち
 - ・地域内外と日常的につながり、移動が便利なまち

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・居住誘導区域については、用途地域内を基本として設定する。さらに都市機能が集積している区域または公共交通の利便性が高い区域に設定する。
- ・都市機能誘導区域については、居住誘導区域のうち目指すべき都市の骨格構造で拠点の位置づけがある区域なおかつ将来人口集積がみられる区域に設定する。

〔都市機能誘導区域の構成〕

- 棧原・宮谷周辺:文教地区(教育や子育てを支える都市機能を維持・集約することで、生活サービスの持続的な提供を図る。)
- 市役所周辺:中心商業地区(都市機能の集積と合わせて歴史・文化景観の維持・保全や憩いの場を創出することで交流人口の増加を図る。)
- 厳原港周辺:交流拠点地区(島内外をつなぐ交通拠点機能の集約と合わせて憩いの場を創出することで交流人口の増加を図る。)
- 久田周辺:スポーツ・健康地区(市民の健康を促進する都市機能を維持・集約することで、生活サービスの持続的な提供を図る。)

目標を定量化する指標

| 指標 | 単位 | 定義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|-----------------|-----|--------------------------|---|--------|------|--------|-------|
| | | | | | | | |
| 消防車両進入困難エリアの箇所数 | 箇所 | 誘導区域内における消防車両進入困難エリアの箇所数 | 防災・減災が根付いた安全な暮らしの場を構築するため、特に消防車両が進入困難な箇所が密集しているエリアを優先的に拡幅する。 | 11箇所 | R3年度 | 8箇所 | R12年度 |
| 厳原城下町地区内の歩行者数 | 人/日 | 横町線の日当たり歩行者数 | 市の中心部である横町線を中心として、島内外の交流を生む拠点施設の機能を強化するとともに、歴史・文化資源を活かしたまちなかの回遊性の向上を図る。 | 280人/日 | R3年度 | 770人/日 | R12年度 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

※指標については、令和7年12月迄に確定します。

都市再生整備計画の整備方針等

様式(1)-③

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>【独特な歴史・文化を楽しくつなぎながら、気軽に地域の人が集い安心して住み続けられるまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石塀・石垣を活かしたまちづくりを通じて、地域への愛着や誇りを醸成する。 ・誰もが質の高い生活を継続できる住環境を形成するため公共施設の再編及び低未利用地の有効活用を図る。 ・防災・減災が根付いた安全な暮らしの場を構築する。 ・だれもが安心して楽しく歩ける空間や気軽に集まり交流できる場合や機会を創出する。 | <p>【基幹事業】(道路)市道東浜宮前線、【基幹事業】(道路)市道今屋敷田淵1号線 【基幹事業】(道路)市道田淵7号線、【基幹事業】(道路)大手橋 【基幹事業】(地域生活基盤施設)大手橋、市道横町線、市道今屋敷万松院線 【提案事業】事後評価 【提案事業】立地適正化計画変更</p> |
| <p>【世代と海を越えてつながりを感じながら、島全体の経済を牽引するまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島内外の交流を生む拠点施設の機能を強化するとともに、歴史・文化資源を活かしたまちなかの回遊性の向上を図る。 ・商業・経済の活性化に資する施設の集積や商店街の活性化により、市民の活躍の場を提供し、にぎわいを創出する。 ・交流や生産活動に不可欠な安定した情報発信を支える通信環境を整備する。 | <p>【基幹事業】(道路)市道東浜宮前線、【基幹事業】(道路)市道今屋敷田淵1号線 【基幹事業】(道路)市道田淵7号線、【基幹事業】(道路)大手橋 【基幹事業】(地域生活基盤施設)大手橋、市道横町線、市道今屋敷万松院線 【提案事業】事後評価 【提案事業】立地適正化計画変更</p> |
| <p>【地域内外と日常的につながり、移動が便利なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の機動力を確保するため主要道路を改良し、地域の安全性を高める。 ・幹線道路の整備と生活道路の拡幅等を行うことで、地域内外の移動を円滑にする。 | <p>【基幹事業】(道路)市道東浜宮前線、【基幹事業】(道路)市道今屋敷田淵1号線 【基幹事業】(道路)市道田淵7号線、【基幹事業】(道路)大手橋 【基幹事業】(地域生活基盤施設)大手橋、市道横町線、市道今屋敷万松院線 【提案事業】事後評価 【提案事業】立地適正化計画変更</p> |
| <p>その他</p> | |

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集中支援事業)

様式(1)-④-1

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 交付対象事業費 | 654.0 | 交付限度額 | 321.2 | 国費率 | 0.491 |
|---------|-------|-------|-------|-----|-------|

(金額の単位は百万円)

| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直/間 | 規模 | (参考)事業期間 | | 交付期間内事業期間 | | (参考)全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | 費用便益比B/C |
|----------------|---------------------|---------------------|------|-----|------|----------|------|-----------|------|-----------|----------|--------|--------|---------|----------|
| | | | | | | 開始年度 | 終了年度 | 開始年度 | 終了年度 | | | | | | |
| 道路 | | 東浜宮前線 | 対馬市 | 直 | 215m | 9 | 12 | 9 | 12 | 333 | 333 | 333 | | 333 | — |
| 道路 | | 今屋敷田淵1号線 | 対馬市 | 直 | 92m | 9 | 12 | 9 | 12 | 133 | 133 | | | 133 | — |
| 道路 | | 田淵7号線 | 対馬市 | 直 | 105m | 10 | 12 | 10 | 12 | 116 | 116 | 116 | | 116 | — |
| 道路 | | 大手橋 | 対馬市 | 直 | 10m | 8 | 9 | 8 | 9 | 42 | 42 | 42 | | 42 | — |
| 公園 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 古都保存・緑地保全等事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 河川 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 下水道 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 駐車場有効利用システム | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域生活基盤施設 | 広場 | 大手橋、市道横町線、市道今屋敷万松院線 | 対馬市 | 直 | 3基 | 11 | 11 | 11 | 11 | 10 | 10 | 10 | | 10 | — |
| 高質空間形成施設 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高次都市施設 | 地域交流センター | | | | | | | | | | | | | | |
| | 観光交流センター | | | | | | | | | | | | | | |
| | テレワーク拠点施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 賑わい・交流創出施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 賑わい・交流創出施設(地域資源活用型) | | | | | | | | | | | | | | |
| | 子育て世代活動支援センター | | | | | | | | | | | | | | |
| | 複合交通センター | | | | | | | | | | | | | | |
| 誘導施設 | 医療施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 社会福祉施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育文化施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 子育て支援施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 元地の管理の適正化 | | | | | | | | | | | | | | |
| 広域連携誘導施設 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 既存建造物活用事業 | 高次都市施設 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地区画整理事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市街地再開発事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅街区整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| バリアフリー環境整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 優良建築物等整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅市街地総合整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 街なみ環境整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 住宅地区改良事業等 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 都心共同住宅供給事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公営住宅等整備 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 都市再生住宅等整備 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防災街区整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 復興促進事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| エリア価値向上整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| こどもまんなかまちづくり事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 暑熱対策事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | 634 | 634 | 634 | 0 | 634 | …A |

| 事業 | 細項目 | 事業箇所名 | 事業主体 | 直/間 | 規模 | (参考)事業期間 | | 交付期間内事業期間 | | (参考)全体事業費 | 交付期間内事業費 | うち官負担分 | うち民負担分 | 交付対象事業費 | |
|-------------|-----|-----------|------|-----|----|----------|------|-----------|------|-----------|----------|--------|--------|---------|----|
| | | | | | | 開始年度 | 終了年度 | 開始年度 | 終了年度 | | | | | | |
| 地域創造支援事業 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業活用調査 | | 事後評価 | 対馬市 | 直 | 1式 | 12 | 12 | 12 | 12 | 10 | 10 | 10 | | 10 | |
| まちづくり活動推進事業 | | 立地適正化計画変更 | 対馬市 | 直 | 1式 | 9 | 9 | 9 | 9 | 10 | 10 | 10 | | 10 | |
| 合計 | | | | | | | | | | 20 | 20 | 20 | 0 | 20 | …B |

| | | |
|-------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| <p>歴史海道厳原地区(長崎県対馬市)</p> | <p>面積 75 ha</p> | <p>区域 対馬市厳原町国分、今屋敷、田淵、天道茂、中村の各一部</p> |
|-------------------------|-----------------|--------------------------------------|

